

# 国語科学習指導案

1 単元名 言葉と文化について考え方

2 単元の目標

- ・「外来語と日本文化」に書かれている内容を的確に押さえながら、文章の中にある大事な言葉を使って、筆者の意図がよく伝わるように要約する。
- ・取り組んだ自分の課題について意欲的に取り組み、書く必要のある事柄を適切に取捨・選択したり、整理したりしてまとめ、「言葉と文化」展示発表会を開く。

3 単元について

本単元は、子どもたちの言語生活にとって身近な「外来語」を取り口として教材文を読み取り、その中で、興味をもったことや疑問に思ったことを学校図書館や地域の図書館、さらにインターネットなどで情報収集し、国語についての知識を広げることを意識している。

この単元において、主体的で確かな言語活動を実現するために、導入時の子どもたちの興味・関心を高める手立てに配慮する。具体的には、新聞や広告の中から外来語を集めさせ、気がついたことをまとめさせる。また、進んで調べ学習に取り組むためには、資料収集が容易に行える知識や技能を身に付けさせておきたい。効率的に必要な情報にたどり着くことができるよう図書室の司書に協力を仰ぎ、資料収集活動を意欲的に行えるようにしていきたい。

この教材は、カード・カルタ・カルテの三つの言葉を例として、言葉と文化の関係は、その言葉を伝えた国との交流であることを述べている。したがって、この三つの言葉の共通性と相違性を明らかにしていくことで、日本とそれらの言葉を伝えた国との交流の姿をとらえていくことができる。そして、そのような交流の姿を読み取った後に生れてきた新たな疑問・興味を、その後の調べ学習の原動力にしていきたい。予想される調べ学習の課題として、「短歌・俳句の有名な作家や作品」「日常生活の中で使う外来語」「略して使う外来語」「外来語クイズ」などが考えられる。子どもの興味や関心を大切にして、自分自身の課題となるよう配慮していく。効果的な読み方の指導として、見つけた情報をそのまま使うのではなく、その中から必要な情報を選択させる。そして、詳しく書くか簡潔に書くかを考え、効果を工夫したり、その情報に自分の意見や感想を加えたりして、発表用の資料を作るよう指導していきたい。

4 児童の実態（男子19名、女子13名 計32名）

アンケートの結果によると、「国語の時間に調べることが好き」と答えた児童が20名で、「嫌い」と答えた児童はいない。しかし、それをまとめることについて聞くと、「好き」と答えた児童は、9名で「嫌い」と答えた児童は7名になる。「嫌い」と答えた児童の理由は、「字を書くのがめんどう」「分かりやすくまとめられない」などである。

児童は、調べる学習をしていると必要な資料を見つけただけで満足てしまい、資料をそのままし、内容を理解しないまま、まとめとして発表してしまうことがある。

そこで、初めに、調べたもののそのままの情報を一次情報として調べカードに書かせたり、資料を貼らせたりする。次に、その調べカードの中から特におもしろいと思ったこと、友達にこれだけは伝えたいという資料を選択させる。最後に、その資料に自分の意見や感想、新たに生まれた疑問などを付け加えて発表会用の資料（二次情報）として加工する。

このように三段階の手順を踏むことにより、調べた内容をよく理解し、自分なりに相手がよく分かるように工夫した資料を作成することができるようになると思う。

## 5 身に付けさせたい基礎基本（ は重点）

話す・聞く力	・初めて知ったことや思ったこと、さらに調べたことをふさわしい形にまとめ、発表する。（ア）
書く力	・各自取り組んだ内容を、分かりやすくまとめる。（ア） ・調査した内容を効果的に表現するために、発表の方法を工夫する。（オ） 全体を見通して調べたことの中から必要な事柄や資料を選び、整理する。（イ）
読む力	言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえ、要約する。（イ） ・書かれている内容について、事例と感想、意見の関係を押さえ、言葉と文化について自分の考えをもちながら読む。（エ）
言語	・語感、言葉の使い方などに关心をもつ。（ウ） ・言葉についての由来や歴史、特質などについて理解を深める。（ア・ウ）

## 6 人権教育との関連

- ・自分の課題を追究することにより、視野を広げ、自己を高めようとする。（知性）
- ・一緒に活動するグループの中で話し合いながら、自分の考えを正しく相手に伝え、進んで発表できる。（表現力）
- ・一緒に活動するグループの中で話し合いながら、お互いの考え方や感じ方を認め合い、深め合うようにする。（実践力）

## 7 指導計画と評価計画（12時間扱い）

学習過程	時	学習活動	主な支援と評価
1 単元全体を見通す。	4	<p>1・生活の中の外来語の多さに気づき、感想を書く。 ・内容に興味をもち、単元の見通しを立てる。</p> <p>2・「外来語と日本文化」を通読し、三つのまとまりに分けて問題提示部分を見つけ、自分の課題として意識する。 ・□の内容で要約のしかたをとらえる。</p> <p>3・□と□のまとまりを読み、課題の答えを見つけてまとめる。</p> <p>4・外来語クイズに答え、外国で使われる日本語も知る。 ・学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来語を一切使ってない例文を用意し、日本語の中に外来語が多く定着していることに気づかせる。</li> <li>・難語句や新出漢字を確認する。</li> <li>・「こんなこと」などの指示語に着目させ、問題提示の文を一人一人書くよう指示する。</li> <li>・要約をするうえで、前の段落をすべて書き写していないか、主語が抜けているか。</li> <li>・具体例の一部を羅列的にとらえている児童には、それをまとめるよう個別に支援する。</li> <li>・外来語は新しい文化とともに日本に入ってきたが、その入り方によって意味が限定されたことをつかんだか、そして、要約のしかたをつかんだか。</li> <li>・筆者の考えを意識してまとめるよう示唆する。</li> <li>・外来語全般と日本文化の関連、言葉と文化についての感想が書けているか。</li> </ul>
2 日本独特のリズムを楽	1	1・「現代を生きる五音、七音」を読み、例文を声に出して読んで、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひねもす」など、使い慣れない語句について解説する。</li> </ul>

		しmu。	リズムを楽しむ。 ・感想を話し合う。	・気に入った短歌や俳句を選んで、近くの席の児童と読み合うなど、幾つかの音読の方法を投げかける。 体や表情でリズムをとるなどして、音読を楽しんでいるか。
3 「言葉と文化」展示館を開いて、みんなに紹介する。	7	1・教科書P43～47を読み、教科書に示されている三つのコーナーから、やりたいものを選び、グループを作る。 ・グループ単位で、「何を」「どのように」調べ、「どうまとめるか」はっきりさせながら、活動を進める。 2～3・図書室やパソコン室で調べ学習を進め、調べカード(一次情報)にまとめる。 ・資料を書き写したり、必要なところをコピーして貼ったりする。 4～6 調べたことの中から必要な情報を選択して、発表資料(二次情報)に加工する。 (本時4時間目) 7 展示館を開催する。感想の交流や反省を行う。	1・前の二教材での驚きや感動を継続させ、新しい課題に取り組んでみようという意欲を持たせたい。 先を見通して発表した意見、調べ活動を具体的にイメージし、積極的に関われたか。  ・必要に応じて図書室の司書に支援を依頼する。 ・必要な資料が共有しているので、調べ学習を進める方法を友達から学んだり、資料を共有して学習を進めたりする。 必要な図書資料や情報を探し、調べカードにまとめることができたか。  ・調べた内容を分かりやすく書き直す工夫のポイントを確認する。 ・友達にこれは伝えたいと思う資料を選択させ、それを自分の言葉で聞く人にわかるようにまとめるようにさせる。 調べたことの中から必要な情報を選択し、羅列的にならず、ポイントを押さえまとめているか。 ・発表時の役割分担も進めるよう支援する。 ・調べた内容や、活動の内容について要約したものを、上手に取り入れて発表できるようにさせる。 積極的に発表に関わっているか。	

## 8 本時の指導

(1) 題材 「言葉と文化」展示館へようこそ

(2) ねらい

調べたことの中から必要な情報を選択し、自分や聞く人に分かるようにまとめることができます。

(3) 人権教育の視点

分かりやすくまとめられた友達の発表を聞き、自分のまとめ方の参考にすることにより、互いの深まりを認め合い、喜び合えるようにしたい。(実践力)

伝えたいことを自分の言葉でまとめ、発表させたい。(表現力)

( 4 ) 展開

具体目標	学習活動	時間	人権教育上の配慮	評価
			教師の支援と評価	資料
1 本時のめあてがわかる。  2 調べカードの中から特におもしろいと思ったこと、友達にこれは伝えたいという内容を選択し、自分の言葉でまとめることができる。	1 本時のめあてを確認する。  調べたことを自分や聞く人に分かるようにまとめよう。	5	・キーワードに線を引いたり、難しい言葉を分かりやすく直したりするなどの「分かりやすく書き直す工夫」のポイントを押さえれる。	「分かりやすく書き直す工夫」 掲示用資料 ワークシート
	2 調べカード(一次情報)から必要な資料を選択し、自分や聞く人に分かるようにまとめる。  「分かりやすく書き直す工夫」を見ながら、自分でまとめる。	2 5	・共通する課題ごとに学習グループを作り、席の配置をグループごとにすることによって適切な資料やアドバイスを容易にする。  友達にこれは伝えたいと思う資料を選択させ、それを自分の言葉でまとめるようにさせる。 ・戸惑う児童には、アドバイスをしながら活動させる。 調べたことの中から必要な情報を選択し、羅列的にならず、ポイントを押さえてまとめていくか。	O H C
	3 自分のまとめたことを、クラス全体に発表する。	1 2	・よくまとめられている児童のワークシートをO H Cに映して、どのように分かりやすくまとめたか発表させる。  数名発表させた後、聞いている児童には、自分が参考にしたいところはどんなところか発表させ、互いの深まりを認め合うようにさせたい。	
	4 今日の学習を振り返り、ワークシートに自己評価を記入する。	3	・自己評価をして、今後の活動に対する意欲をもたせるようにする。	

( 5 ) 評価

調べたことの中から必要な情報を選択し、羅列的にならず、ポイントを押さえてまとめることができたか。

## 9 成果と課題

( 1 ) 成果

- ・情報活用力と分かりやすく伝える力が必要である。今日の授業は、総合その他の学習で生きていくと思われる。
- ・身に付けさせたい力に応じて担任が意識を持って臨むことが大切である。今回のように教科書をもとにアレンジしたのはよかったです。

( 2 ) 課題

- ・ 単元ごとの評価計画をつくるとよい。
- ・ 身に付けさせたい基礎基本が多すぎる。もっと絞り、他教科・他単元に回すなどの工夫をすることが大切である。
- ・ 要約の力をつけるスキル学習は、3年生からの国語の時間に、学年の系統性を考えながら指導していくとよい。